

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ：<http://www.library.city.kawasaki.jp/>



新中原図書館ってどんなところ？

～平成22・23年度川崎市立図書館協議会研究活動報告書より～



川崎市立図書館協議会の研究活動報告書が発行されました

川崎市立図書館協議会とは、学校教育や社会教育、家庭教育関係者、公募市民、学識経験者による10名の委員で構成される市立図書館長の諮問機関です。2年間の任期で研究活動を行い、図書館長に対して答申や意見具申等を行っています。このたび、平成22・23年度の任期委員の研究成果がまとまり、市立図書館各館で研究活動報告書『新中原図書館の整備について』をお読みいただけるほか、市立図書館ホームページでも全文をお読みいただけます。

平成22・23年度の研究活動報告書は、平成25年春のオープンを目指して建設中の新しい中原図書館について、分かりやすくQ&Aにまとめていますので、ぜひお読みください。

***** 図書館協議会委員が作製した新中原図書館のQ&A *****

※ページの都合上、一部分のみ紹介します。

Q1 新中原図書館はどこに作られるのですか。

A1 武蔵小杉駅南口地区西街区と称される地域で、現在の南武線・横須賀線の北改札（南武線口）・東横線のJR連絡口からともに徒歩1分の駅前ビル（商業テナント、民間分譲集合住宅との複合ビル）の5階6階の2フロアに作られます。東急東横線の上に新たな駅ビルが建設され、駅ビルの4階に新しい改札口が作られ、新中原図書館の入るビルと東横線の駅ビルは直結されるほか、2階フロアもJR武蔵小杉駅とつながるようになります。改札口を出て、廊下を抜けて、エスカレーターを昇れば、雨の日も傘をささずにそのまま新中原図書館まで行くことができます。

Q2 新中原図書館の広さはどのくらいですか。今の図書館よりどのくらい広がるのですか。

A2 新中原図書館は高層ビルの5階6階部分に作られ、2フロアになります。事務スペースや階段、バックヤード部分等も含め、延床面積は約4,500㎡になります。現在の中原図書館は、本館の地下から3階と別館の1階から3階まで合わせて約2400㎡ですので、床面積は約1.88倍になります。新中原図書館では、5階、6階とも現状に比べ、かなり広いスペースができるほか、座席数も増えることとなります。

Q3 新中原図書館の所蔵冊数はどのくらいになるのですか。今の中原図書館に比べてどのくらい本が増えるのですか。

A3 おおよそ45万冊の図書や新聞、雑誌、CDが収容できる予定です。現在の中原図書館の蔵書可能冊数は約32万5千冊ですので、約12万冊以上増えることとなります。

※なお、研究活動報告書『新中原図書館の整備について』の詳細は下記をごらんください。

「川崎市立図書館ホームページ」→「図書館条例・各種報告書」→各種報告書「図書館協議会研究活動報告書 平成22・23年度 新中原図書館の整備について」

http://www.library.city.kawasaki.jp/pdf/regulations/06katudouhoukoku_h22_23.pdf

導入を予定している機器
(写真はイメージです)



←自動貸出機

自動予約棚→



今年も読書の秋の到来です!!

かわさき読書週間の10月28日(日)～11月10日(土)を中心に、各館で多彩な催しをご用意してお待ちしています。是非ご参加ください。

2012「読書のまち」読書週間 企画

川崎市立図書館	10月28日(日)	読書普及講演会『宮沢賢治の伝えたいこと』(詳細は右面をご覧ください) かわさき宙と緑の科学館
川崎図書館 大師分館 田島分館	10月21日(日)	川崎・大師・田島合同企画「おはなしキャラバン」 紙しばい・パネルシアター・てあそび・うたあそびなど 教育文化会館 イベントホール
幸図書館	10月24日(水)	おはなし会(幸えほんの会)
	11月10日(土)	大人のための朗読会(朗読グループ レザミ)
	11月14日(水)	おはなしワールド(国際子育てクラブトントン) 外国の言葉と日本の言葉で絵本の読み聞かせや言葉遊びをします
日吉分館	10月19日(金)	秋のリユース本ミニ配布会
	10月28日(日)	ストーリーテリング秋のおはなし会
中原図書館	10月27日(土)	おとなのためのおはなし会
	12月2日(日)	さようならなかはらとしょかん本の森 絵本の読み聞かせ・絵本展示・ボランティア紹介展示ほか
高津図書館	10月21日(日)	秋のおたのしみ会 親子で科学の玉手箱 — 偏光板アート —
	10月27日(土)～ 11月4日(日)	高津区の読書活動紹介展示 図書館で活動しているグループや学校図書館の活動紹介 読書標語・ポスター作品展示ほか
	11月9日(金)～ 11月11日(日)	リユース本の配布・本の展示 等
橘分館	11月11日(日)	どんぐり広場(読み聞かせボランティアどんぐりによる紙芝居 中心のおはなし会、おすすめ絵本の展示)
	10月19日(金)～ 10月24日(水)	みやまえ読書の日 人形劇・おはなし会・ミニ講演・子どもの本の展示・図書館ツアー わらべ歌・本の病院・学校図書館ボランティアの活動展示 その他宮前市民館
多摩図書館	10月17日(水)	椎名誠 講演会
	10月20日(日)	大人のためのおはなし会
	10月27日(土)・ 11月10日(土)	多摩区郷土史入門講座
	10月28日(日)	講座「みぢかな科学と絵本」 ①親子で遊ぶ科学あそび ②科学の絵本っておもしろい!?
	10月27日(土)～ 11月4日(日)	図書館で活動しているグループや学校図書館の活動紹介展示
	11月11日(日)	秋のおはなし会
麻生図書館	11月2日(金)	大人の方に楽しんでいただくためのお話の会 麻生市民館
柿生分館	10月27日(土)～ 11月4日(日)	読み聞かせボランティアによるおはなし会、 おすすめ絵本の展示、リユース絵本の配布
教育委員会 指導課	11月4日(日)	第10回読書の日のつどい 絵本作家浜田桂子先生の講演会と読書活動表彰式 中原市民館

予告なしに変更する場合があります。

詳しくは図書館ホームページや各館(読書の日のつどいは教育委員会指導課)にお尋ねください。

宮沢賢治の伝えたいこと

東日本大震災以降、改めてその作品のもつメッセージや「力」が見直されている宮沢賢治。「銀河鉄道の夜」や「よだかの星」など星をモチーフにしたものも多い賢治作品の魅力や、作品を通して賢治が伝えようとしたことについて、宮沢賢治の地元、岩手県花巻市の宮沢賢治記念館副館長・牛崎敏哉先生を講師にお迎えしてお話しいただきます。会場は、今年4月にリニューアルオープンしたばかりの「かわさき宙と緑の科学館」のプラネタリウム。賢治作品に登場する星たちを最新のメガスター3による投影でご覧いただけます。秋の夜、一度限りの共演を是非体験してください。

日 時：平成24年10月28日(日) 午後5時～7時
(開場・受付開始は午後4時30分)
場 所：かわさき宙と緑の科学館 プラネタリウム
対 象：川崎市在住、在勤、在学の15歳以上の方
定 員：180名
申込み方法：往復ハガキに参加希望者(1枚のハガキで2名まで)各々の住所・氏名・電話番号・在学、在勤の場合はその旨を記入し下記宛先まで。(郵送のみの受付・申込み多数の場合は抽選)
締 切 り：平成24年10月11日(木)【必着】
申込み宛先：〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417
川崎市立中原図書館「講演会」係あて

【講師紹介】

牛崎 敏哉(うしざき としや)

昭和29年岩手県花巻市生まれ。詩・戯曲・童話・評論の分野にて執筆を続けている。絵本評論賞(すばる書房)、岩手県芸術祭賞(文芸評論)、国民文化祭岩手児童演劇脚本賞等受賞多数。

また、昭和59年より「劇団らあす」の活動開始。講演や朗読など多彩な活動を通して宮沢賢治の世界とその魅力を伝える。

著書に『宮沢賢治大事典』(勉誠出版)、『知っ得 宮沢賢治の全童話を読む』(学燈社)、『宮沢賢治の深層』(法蔵館)(いずれも共著)ほか。

花巻市宮沢賢治記念館副館長・学芸員。



フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」

わが川崎のサッカーJ1チーム「川崎フロンターレ」と図書館との合同企画です。第10回は、登里選手が選ぶ1冊を紹介します。

『**グアルディオラのサッカー哲学 ～FCバルセロナを世界一に導いた監督術**』
ファン・カルロス・クベyro、レオノール・ガジャルド/著 今井健策/訳 【実業之日本社】2011年刊
《内容紹介》

今年5月に4シーズン務めたFCバルセロナの監督を辞したジョゼップ・グアルディオラ。12歳でFCバルセロナのカンテラ(下部組織)に入団しバルサの象徴として活躍。現役引退後はFCバルセロナBの監督を経てトップチームの監督に抜擢、数々のタイトルを獲得し、指導者としても高く評価されている。若くして独自のサッカー哲学を持ち世界最高峰のチームを作り上げたグアルディオラの、珠玉の言葉が満載の一冊。



KAWASAKI
Frontale



【MF23 登里亨平選手】

スピード感あふれる鋭いドリブル突破と左足のクロスを得意とするアタッカー。ワンフェイクで抜け出す瞬発力とキックの精度に磨きをかけ、昨シーズンは開幕スタメンを果たし、ゴールを挙げた。

人懐こい性格と笑顔でサポーターの人気も高く、独特の表現とポキャブラリーで綴られるブログのヒントは本から得ているとかいないとか!?メンタルトレーニングに読書を活用している。

*** 登里選手より ***

他の選手もそうですが、僕も遠征のときによく本を読みます。最近読んだ中で印象に残っている本が、この本です。世界的にも有名なスペインの強豪、バルセロナで選手としても監督としても黄金期を築いたグアルディオラの哲学が存分に盛り込まれた本になっています。

これだけ名将になっても、監督の考えていることは誰もが共通なんだなと思いました。選手はどうあるべきかについても、自分自身、納得できる言葉ばかりでした。中でも、いちばん印象に残っているのは「負けたら監督の責任」という言葉で、選手にとってはこんな言葉を投げかけられたら、「監督のために!」とより頑張れると思いますね。

川崎市の歩みと未来の展望 (2)

「川崎市史」編さんの推進について

法政大学名誉教授
村上直

地域社会（コミュニティ）において、地方自治体史（都道府県・市町村が編さんする、歴史・地誌の刊行物）の果たす役割はきわめて大きいといわれています。この自治体史は、昭和33年（1958）頃から、高度経済成長の波にのって、全国的なブームになりました。

それは、自治体の行政に携わる人々にとって、地域のあるべき姿を模索していく場合、改めて風土や歴史を考察していくことが必要であるという意識から企画されていったのではないかと思います。つまり、その場合、市民にとっても在住する地域を理解していくために、自治体史の活用が大いに必要だからといえるのです。これからは、住民の自治体の行政への積極的な参加が、環境保護などの問題を通してみられるようになっていくでしょう。

もっとも、自治体史の編さん事業の内容や構成、規模については、各市町村によって、かなりの相違がみられます。とりわけ、横浜市や川崎市のような政令指定都市の場合は、「市」と共に「区」が編さんの対象にもなる場合が多いのです。

なお、最近の自治体史の編さん事業については、「近現代史」が注目されるようになりました。とくに文化遺産の保存と活用を含めて、未来に伝えていくための自治体の歩みが見られるようになりました。

私は、かつて『日本近世史研究事典』（東京堂出版）という編著書を発行しましたが、その中で「自治体史の編さんと市民学習」という項目で、戦後の研究の動向を記したことがあります。これらをご覧くださいいただけます。

川崎市と『川崎誌』の編さん

川崎市は、大正13年に市として成立しました。このとき、市制の施行記念として『川崎誌』が編さん刊行されています。これは自治体史とはいえませんが、まさに、市史に準ずるものといってよいと思います。最初の「はしがき」によって、その概要が分かります。

『川崎誌』の内容については、まず川崎市の沿革、名勝旧跡、市の発展に尽力した人びと、当時の市の中心になって活躍した人たちのことが記してあり、さらに、当時の産業状態及び商工業の状況などが記述されており、これによって、川崎市の過去、現在を明らかにしていくことを目的とする、とあります。そして、編さんのため

利用した資料については、川崎市役所の蔵書、記録を中心とした、神奈川県誌、新編武蔵風土記、大日本地名辞書、大日本人名辞書、その他古文書、寺院の旧記や古老の話を参考にしたとあります。

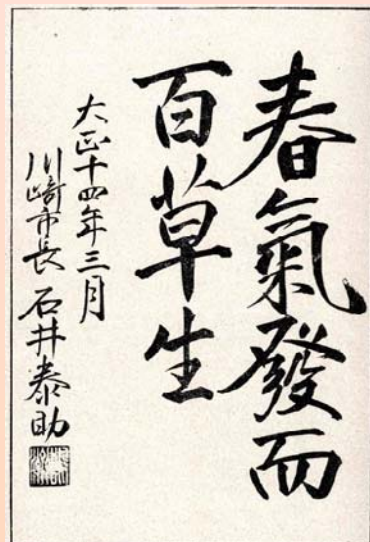
商工業の現況については、当時の経営者の調査を中心に記してあります。これらによっても、現在の自治体史とは、かなり内容の相違がみられます。

そして、この『川崎誌』の編さん事業は、大正13年末に着手したが、予定外の日数を要し、大正14年（1925）5月に至って脱稿したとあり、さらに補正を行ったため、遅れたとあります。

最後に、編さんの協力者については、川崎市長石井泰助、代議士小野重行、神奈川県会議長池上幸操、川崎市会議長森安次郎、同市助役横山三佐二、御幸村元村長鳥養仁一、その他川崎市会議員などの諸氏ともあります。

この『川崎誌』は、勿論、川崎市役所の編さん刊行物ではなく、発行も市制記念川崎誌刊行会・代表高橋国治であり、大正14年8月10日の発行日となっています。地域も、現在とは異なって今の川崎区と幸区の一部です。

※前号の「川崎市の歩みと未来の展望（1）」の記載で、大正13年の川崎市の戸数は「5796戸」としましたが、「9685戸」に訂正いたします。



「川崎市長石井泰助氏題字」

—「川崎誌」（市制記念川崎誌刊行会・大正14年8月刊）口絵より—

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橋分館(788-1531)
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 管覧所(946-3271)